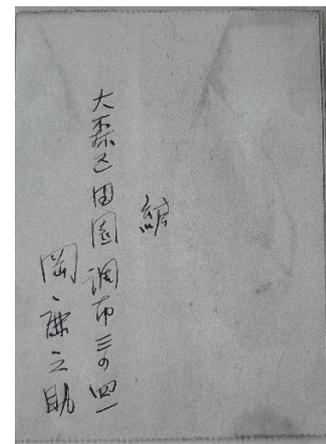
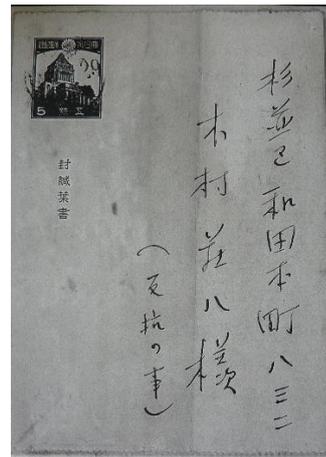


封緘葉書 昭和十八年七月 岡鹿之助↓木村莊八



(宛名)

杉並区和田本町八三二

木村莊八様

(反抗の事)

(差出)

大森区田園調布三の四一

岡鹿之助

只今、怪画執筆最中なれど折から飛来の高便、おのれを呆然その極に到らせし「めたれば、やをらペンをとりて大人に恥をかかさんと思ふなり。さすが大人はもの書くを喜ぶ閑雅の士にありければ、おのれの文章を読

みて、ボルランが最後の一行にて突如死するに至る、その表現をウメエノとほめたたへられたり。

しかるに、只今の怪書を見るに、「あそこを、予に云はれて、あはててテメエで読んで見て、はじめて寒心するなんて、どうだこれは完全に負けたであろう。オマイさんにでけるゲームではないと思ふたんやが、どうもくさい思ふたら、知らずにたれたる屁や、けつたいなやつちゃ」云々とありて、この一文をして遂におのれを呆然たらしむ。おのれが「再読して、今更の如くあの一文に感心申したり」と記せしは、なにもホメられた所を読んだのに非ず。ホメられた所はそれでもうよけれど、もつとホメてもらひたい所ありしかば、自分で再読して寒心したと催促申したるなり。まだノほかに寒心するところ一、二ヶ所はあるなり。それが証拠には谷崎、荷風、芥川などといふ人々より、わざ／＼おほめの言葉寄せられ恐縮最中のところなるに、何んぞ大人の見逃し給ひしこそおかし。プロメシウス(ギリシヤ神話に登場する男神)の芝居のくだりにて、政治に関心せしセリフが出るゝと賛否の口笛、怒号かしましく、ます／＼劇場内騒然といたし来たる状を形容して作者は、いみぢくも「みんな見物人で満足してゐるものはなくなつて、場内には見物人は自分だけひとりになった感じがした」云々と記したる個所なり。外国の政治に興味を持たざるエトランの淋しさは、この文中に溢れて淋しとは、只今鷗外博士よりの書簡にありたり。さすが林太郎先生と感じ申したり。かくの如き表現をなし得る作者が、何んぞ知らずにボルランを最後の一行にて刺し殺すべけんや。こりやそちらの負け

や。

皆々「さうだとも〜」。

メフィスト（文学作品上の悪魔）「一寸と待ってくれ、みんな見物人で満足してゐるものではなくって……」云々といふ名文句は、俺はどこかで読んだ覚えがあるぞ。——フーム——さういへば、あの文のコクトオ（フランスの詩人）が「気にいられることと価値のあること——もし芸術家が公衆の講話内申出に譲歩したらおれの負けだよ」と云ひさうな顔つきをしてゐた、といふあの言葉は、コクトオの言葉ぢやないか。オ、オ、ソレ、ソレ。コクトオの言葉に「バリでは皆が俳優にならうとする。だれも見物人で我慢する者はゐない」といふのがあつた。

「六眼（岡）テメエはコクトオからぬすんだナ」

六「よけいな事を云ひやがる。キリキリ消えてうせろ」

ドロ〜〜〜。

六「大人よ、コクトオが云ってます……（美は気さくな様子をしてゐる。だが公衆は軽蔑する）……と、いいでせう。」

八「ごまかしちゃ、いけねえ」

× × ×

ドン〜橋の図と、ドン〜橋渡れ 狐が通るは、まことに美しい。ムツソリニは辞職した（*）と、大々と新聞に出てゐる日に莊八は、ドン〜橋渡れエ！ と唄つてゐます。 アキレタ男だ。

*（一九四三年七月二十五日）